

薬には病気を治したり、症状をやわらげたりする効果がある一方、副作用があらわれることがあります。医師に指示された用法・用量にしたがって使用してください。体調が良くなったと自分で判断し、使用することをやめたり、量を加減したりすると、病気が悪化することがあります。

薬のことでわからないこと、心配なことなどがありましたら、医師や薬剤師に相談してください。

レボフロキサシン点滴静注バッグ 500mg/100mL「DSEP」、
レボフロキサシン点滴静注 500mg/20mL「DSEP」

一般名： レボフロキサシン水和物（和名） （Levofloxacin Hydrate（英名））	販売名	レボフロキサシン点滴静注バッグ 500mg/100mL「DSEP」	レボフロキサシン点滴静注 500mg/20mL「DSEP」
---	-----	-----------------------------------	-------------------------------

1.どんな薬

- この薬は、細菌のDNA（デオキシリボ核酸）の複製にかかわる酵素を阻害することで、細菌の増殖をおさえ、殺菌作用を示します。[ニューキノロン系抗菌薬]

2.この薬を使用できない人、特に注意して使用する必要がある人

- ⊗ 次の人はこの薬を使用できません。必ず医師や薬剤師に相談してください。
 - 〈共通〉
 - ・過去にレボフロキサシン点滴静注「DSEP」に含まれる成分またはオフフロキサシンで過敏症のあった人
 - 〈炭疽等の重篤な疾患以外の人〉
 - ・妊婦または妊娠している可能性がある人
 - ・小児
- 次の人は特に注意が必要です。使い始める前に医師や薬剤師に相談してください。
 - 〈共通〉
 - てんかんなどのけいれん発作をおこすことがある人、または過去にてんかんなどのけいれん発作をおこしたことがある人、過去にキノロン系抗菌薬で過敏症のあった人、心臓に重い障害（不整脈、虚血性心疾患など）のある人、重症筋無力症の人、大動脈瘤や大動脈解離のある人、過去に大動脈瘤や大動脈解離のあった人、大動脈瘤や大動脈解離のあった人が家族にいる人、大動脈瘤や大動脈解離の危険因子（マルファン症候群/ロイス・ディーツ症候群など）のある人、腎臓に障害がある人、授乳中の人、うっ血性心不全の人、腎臓に重い障害のある人、ネフローゼ症候群の人などナトリウムの摂取が問題となる人
 - 〈炭疽等の重篤な疾患の人〉
 - 妊婦または妊娠している可能性のある人
- この薬には一緒に使用する場合に注意が必要な薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師や薬剤師に相談してください。

3.この薬を使うにあたり注意すべき副作用・注意すべきこと

- この薬の使用により、以下のような症状があらわれることがあります。これらの症状に気づいたら、医師や薬剤師に相談してください。

主な症状	考えられる副作用など
胸の痛み、背中の痛み、お腹が痛い、声がかれてかすれたり出にくくなる、食べ物や水がうまく飲み込めずむせる、息がしにくいと感じる、食べ物が飲み込みにくい	大動脈瘤
胸がとても痛い、背中がとても痛い、お腹がとても痛い	大動脈解離

- ショックやアナフィラキシーがあらわれることがあるので、過去にアレルギーがあった人や薬で過敏症を経験したことがある人は、医師に伝えてください。
- **自動車運転等**：意識障害^{いしきしょうがい}（気を失う、もうろう状態）などがあらわれることがあるので、危険を伴う機械の操作をおこなう場合には、十分に注意してください。
- **高齢の人**：腱障害^{けんしょうがい}があらわれやすいので、腱周辺の痛み、浮腫、発赤等の症状があらわれた場合は、ただちに受診してください。

4.ほかに知られている副作用

「3.この薬を使うにあたり注意すべき副作用・注意すべきこと」に記載されている副作用のほか、比較적으로よくみられる副作用の一例は以下のとおりです。これら以外の副作用もあらわれることがあります。これらの症状や、普段と異なる症状に気づいたら、医師や薬剤師に相談してください。

主な症状	考えられる副作用
注射した場所の赤み	注射部位 紅斑 ^{こうはん}
注射した場所のかゆみ	注射部位そう痒感
お腹が痛い、水や泥のような便が出る	下痢

5.保管方法

—

6.問い合わせ先

症状、使用方法、副作用などについて不明な点がある場合は、医師や薬剤師におたずねください。

この製品に対する一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売業者：第一三共エスファ株式会社（<https://www.daiichisankyo-ep.co.jp/>）

電話：お客様相談室 0120-100-601、受付時間：9:00～17:30（土、日、祝日、当社休日を除く）

※医薬品副作用被害救済制度：お薬は正しく使っていても、副作用が起こることがあります。もしも副作用で重い健康被害が生じた場合に、医療費や年金などの給付が受けられる公的な制度です。

制度の詳細はこちらをご覧ください。

https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html

なお、抗がん剤、免疫抑制剤や抗ウイルス薬などにはこの制度の対象にならないものがあります。対象外となる医薬品はこちらから検索いただけます。

<https://www.pmda.go.jp/relief-services/adr-sufferers/0022.html>